

第32期第2回小田原市図書館協議会会議録

- 1 日 時 平成29年1月17日(火) 午後2時～午後3時47分
- 2 場 所 小田原市立かもめ図書館 集会室(2階)
- 3 出席者 宮崎委員長、野口副委員長、大塚委員、益田委員、松本委員、深田委員
関野文化部長、杉崎文化部副部長、古矢図書館長、三樹副館長
杉崎副館長、内田管理係長、小野サービス係長、遠藤サービス係長、
星崎主査
- 4 傍聴者 1人
- 5 内 容
 - (1) あいさつ
関野部長からあいさつ
 - (2) 報告事項
(委員長) 議事を進める前に、事務局に尋ねるが、本日の議題の中で、非公開にする案件はあるか。

(館長) 特にない。

(委員長) ただいま、事務局から、本日の会議においては、すべて公開で開催する旨発言があったが、各委員、何かご意見などあるか。

(各委員から、意見は無く全員賛成)

(委員長) 全員賛成により、本日は、すべて公開とする。現在、傍聴希望者はいるか。

(星崎主査) ただいまのところ傍聴者は1人である。傍聴者については、5名までは入室可能である。

(委員長) 了解した。

「2 報告事項のうち、(1)「図書館行事の結果について(10月～12月)」と(2)「平成28年度図書館行事の予定について」、事務局から資料発送時に、協議事項により多くの時間を割り当てるために、今回の協議会でも、説明を割愛する旨、事前に連絡をいただいている。資料については、各委員、すでにお目通しと思うが、質問などあったら、ご発言をお願いしたい。

ア 図書館行事の結果について(10月～12月)

「資料1」について、事務局より説明。図書館お楽しみ袋の数量を訂正した。

かもめ児童数量 (誤) 30セット → (正) 61セット

2) 平成28年度図書館行事の予定について

「資料2」について、事務局より説明。1月9日開催の行事「つくろう!名前絵本」について、参加人数を報告した。

「つくろう!名前絵本」 参加人数 23人

3) 図書館を使った調べる学習コンクールの結果について

「資料3」について、事務局より説明。その後、次のとおり、質疑応答を行った。

(委員長) 全国でどれくらい集まったのか。

(遠藤係長) 応募総数は77,453作品、うち小学生の部が57,718作品であった。

(委員長) 小田原ではまだあまり浸透していないが、全国ではかなりの規模でやっている。

これから広がるのが図書館活性化につながると思う。

(野口副委員長) 初めて全国大会に応募して、2作品とも佳作入選とのことだが、全体のどのくらいが入選するのか。

(遠藤係長) 入賞は30、優良賞132、奨励賞234、佳作1,098作品である。

(野口副委員長) 初めてのチャレンジでその中に入ったというのはすごいこと。来年もスポンサーを充実させてやっていくとよりいい作品が出ると思う。

(委員長) 小田原市内の子どもたちへのサンプルの展示は難しいのか。展示をすることによって関心を持ってもらおうと良い。

(遠藤係長) 3月の春休みに向けて展示できるように準備をしている。

エ 駅前図書施設計画の進捗について

「資料4」について、事務局より説明。次のとおり、質疑応答を行った。

(松本委員) A, B, C, D と4社によるプロポーザル方式により、優先交渉権者が選定されたようだが、優先交渉権者の図書施設面積はどうなっているのか。図書館の規模は以前、1,300㎡とか1,000㎡くらいだったが、そこも変わってくるかもしれないのか。

(三樹副館長) この新聞記事の範囲では、AからDのどれが優先交渉権者の提案内容かわからない。また図書館の面積等も明らかになっていないが、1,000㎡から1,300㎡という要求水準は満たしていると考えている。極端に小さくなることや、大きくなることはないと考えている。

(松本委員) 優先交渉権者とは、設計も含めて建設をするのか。

(三樹副館長) 駅前再開発の設計は優先交渉権者がやるが、図書館部分については現在のところ、あくまで所管が考えることになっている。この優先交渉権者にお願いするか、別のところをお願いするかは未定である。

(松本委員) 図書館は特殊な部分がある。ある図書館に行ったら、年数があまりたっていないのに、作り付け書棚自体が反ってきてしまっていた。什器の設計などで専門的な知識が必要になってくるので、できれば図書館について経験のある設計者に入ってもらった方がいい。

(三樹副館長) もちろん図書館としても、専門業者の意見を聞いてやっていきたいと考えている。

(委員長) 万葉倶楽部（優先交渉権者）と相談のうえで、専門の設計者を取り込むことは可能なのか。

(三樹副館長) 万葉倶楽部が造る建物に市が間借りをする形を予定している。「間借りする部分は市でやってください」となるかもしれないし、「万葉倶楽部が造ります」となるかもしれない。松本委員がおっしゃったのは、「万葉倶楽部が造ることになった時、丸投げでなく、図書館の部分には専門家を入れるべきである」ということだと思うが、図書館としてもそのように投げかけている。

(委員長) 私もその方向でお願いしたい。資料中「(3) 運営方法について 図書館の運営方法については、民間活力を取入れることを含め、慎重かつ迅速に検討、決定する必要がある。」とあるが、具体的にご説明願う。

(三樹副館長) 基本方針では「駅前図書施設に限らず、図書館整備にあたって、民間活力を導入していく」と策定している。運営方法は、直営で一部業務を委託、指定管理など選択肢はいろいろある。今後慎重に考え、小田原市の図書館として何が一番良いか共有して、協議していきたい。

(委員長) 運営方法については、今後、図書館で考えていくということか。

(三樹副館長) そのように考えている。

駅前の再開発については、4社から提案が出ていて、プロポーザルにより、今回は万葉倶楽部に決まった。万葉倶楽部が出した提案の中で、図書館をどんな内容にするのか、広さ、蔵書数などはわからない。要求水準書で希望は事前に伝えてある。それを反映させた提案書なのかどうかはまだ図書館側に示されていない。

(深田委員) 市の要求水準について、お聞きしたい。

(三樹副館長) 広さは1,000㎡～1,300㎡、蔵書数は閉架も含めて10万冊である。

(益田委員) 「(1) 子育て支援施設との連携」は、図書館だけで運営するのか、子育てと連携した運営をするのか、子育ては子育てとして運営するのか。図書館としての

見通しはどうか。

(三樹副館長) 図書館と子育て支援のエリアは別々に配置するが、事業として連携することを考えている。子育て支援施設に図書館の職員またはボランティアさんが行って、図書館の事業として、支援施設を使っている子どもたちに読み聞かせをすることなどが考えられる。せっかく同じ建物内に設置されるので、今後は、そういう事業も検討していきたい。

担当所管である、子育て政策課と協議を始めたところであり、今後、進捗状況を見ながら、並行して決めていく。皆さんとこの場で共有していきたい。

(委員長) 事業を立ち上げるときに連携して共同でやるとか、図書館側がやっていることに對して、それを一緒に実施するようにするとか、具体的にはそういうことか。

(三樹副館長) そのとおりである。どのようにすれば駅前という立地を生かした事業ができるのかである。今まで図書館が実施してきたことに子育て支援施設側が相乗りする、またはその逆、または新しい形態で実施するなど、これから協議に入る。

(益田委員) フロアで隣になるかどうかは未定か。

(三樹副館長) そのとおりである。

(杉崎副部長) 建物のデザイン性やコンセプト、提案の内容、広さなどを総合して事業者の選定は行われており、自由な提案なので、費用の面や行政側との調整などの問題は出てくると思う。まだ確定ではなく、年度末に向かって協定の基本的なところを決めていく段階であり、図書館の要求水準と隔たりがあるかもしれない。設置場所が隣なのかどうかもまだ不明であるが、事業の連携だけはしていくという方針である。

(委員長) 場所が限られているので、「今日はそこが空いているなら貸して」「どうぞ」といった連携をしていく必要があると思われる。親子のスペースを広げられるようにしていただきたい。新聞にも載っていたが、「行政の縦割りにならないように」というのは、市民も危惧しているところである。

(館長) 今月末には、議会に提案内容を報告することになっている。どこまで公表されるかわからないが、提案に審査会から注文がついているようなので、提案どおりではなく、そこから練っていくことが予想される。第2弾の情報内容を見てから、3月の協議会でまた議論を深めたい。

(松本委員) 29年度中に、基本設計、実施設計を行うというのは、かなりタイトなスケジュールだと思う。どういう図書館を作っていくのかというのは重要だし、市民の方々にお城の図書館がなくなって新しい図書館ができることを周知していくためにも、いろいろなイベントを実施するといいいのではないか。図書館主催でも図書館協議会主催でもいいし、市民の方々に実施してもいい。どういう図書館にするか、市民の方々に意見や要望をいただき、まとめていく。そういう機運を盛り上げる活動をしてもいいのではないか。

(館長) おっしゃるとおりである。一昨年度、昨年度と野口副委員長、松本委員にご協力いただき、「さいきんとしよかんいった?」、「あれからとしよかんいった?」というイベントをやった。今年度はタイミング的に動きがとりにくく、意見を聞く場が設けられなかったが、今後、星崎記念館(市立図書館)の閉館の事実を皆さんにしっかり受け止めていただくことが必要だと思うし、閉館に向けて小田原で60年近くに渡り市民の方々が大事にしてきた図書館の花道を飾らねばならないし、どういう物を引き継いでいくか、新しい図書館としての新しい機能への期待もあると思う。来年度は市民ができるだけ参加できるような形で、外に向けて発信する機会を増やしていきたいと思う。

(委員長) 大いに賛成である。「小田原城内の図書館の閉鎖、その代わりの駅前」というインプットがあまり市民にされていない。大いに発信をしていかないといけない。

(大塚委員) 前期の図書館協議会で積み上げた議論が、具体的に決まっていく中で反映されていけばありがたいと思う。駅前図書館の目的をそれぞれ市民が自分のものと思えるような図書館になっていくためには、今、松本委員がおっしゃったことなどを、具体的に実施していただきたい。

(3) 協議事項

ア 第二次小田原市子ども読書活動推進計画の策定について

「資料5」について、事務局より説明。その後、次のとおり、質疑応答を行った。

(委員長) 資料5-2中、点検評価結果の「現状維持」とはどのような意味か。

(館長) 評価のコメントにもあるが「少ない予算でかなり工夫してやっている」と意見をいただいた。大きな予算で大々的にやるのではなく、今の工夫を継続するのが良いのではないか、ということである。評価指標は事業仕分けの要素を取り入れているので、いずれかの結論を出すということの中では、「今のまま頑張って工夫してやってください」という意見だったということである。

また、計画書案の18ページをご覧いただきたい。前回の協議会で、「もっと何課が何をやるかしっかり書き込んだ方がいい」というご意見をいただいた。これが精いっぱいだが、こういう形で、図書館がやるのか、生涯学習課がやるのかなど、事業を表にまとめてきた。今回、教育委員会事務の点検評価で評価をいただいたのは、図書館の事業なので、みなさんからすでにご意見をいただいている学校図書館の関係までは載せきれていないが、この中の図書館がやることとして挙がっていることなどをこちらに載せている。子ども読書活動推進のために、図書館としてどういうことをやっていったらいいか、駅前での子育て施設との連携も課題であるので、そういうことも含め、広い立場からご意見をいただければと思う。

(松本委員) 資料5-2の、学識経験者及び教育委員会の主な意見に、「ブックスタートの再開について、一つのNPOの独占事業である」と記載されているが、どういうことか。

(館長) 教育委員会事務の点検評価のアドバイザーが、事業仕分けでブックスタート事業を廃止した時に関わった方であり、その方のご意見である。ブックスタートを行っているNPOが出版社等から安く本を仕入れて、このNPOを通して、ブックスタート事業を実施している各自治体が購入しているのが全国的なスタイルなので、「競争原理が働いていないのではないか」というご意見であった。「比較的安い価格であるが、もっと競争させて、違うやり方で本を入手できるのではないか」という趣旨であった。

(委員長) ブックスタートは、「5冊のうち2冊を選んでお持ちください」というやり方だが、その5冊の選定はNPO法人の関係者が行っていた。この方法が、事業仕分けで指摘されたのではないか。本来のブックスタートの意味が浸透しないうちに、コストパフォーマンスで判断されたのはちょっと残念であった。私はそういう風に認識

したが、やり方にもいろいろ問題点があったということだと思う。

(野口副委員長) 資料 5-2 の、学識経験者及び教育委員会の主な意見に「未就学児へのブックスタートの検討以外にも、読み終わった本のリサイクルによる共有化など、循環を意識した取組が効果的であると思う」とあるが、これは小さい子向けにというニュアンスなのか。

(館長) 乳幼児の読書が少ないというのはアンケート結果に出ていて、図書館では、乳幼児に本が行き渡っていないのではないかという意識を持っている。打開策としてブックスタートが有効ではないか、という考え方に対し、「読み終わった本をもっとリサイクルさせ、子供達に行き渡るようにする取り組みをしたらいいのではないか」というご意見だった。

(野口副委員長) 一定の理解はできた。論点 2 つ目に「学校図書館の充実」があがっているが、この点検評価そのものは、生涯学習としての、公立図書館の評価だと思うが、学校図書館は教育指導課で評価を行っているのか。

(館長) すべての事務事業に対する評価は時間の制約があり無理なので、いくつかの事業がピックアップされている。学校図書館は議題にあがっていなかったかもしれない。

(深田委員) 資料 5-2 中「今後の方向性・事業展開」に「平成 30 年度に新規事業を予定」とあり、平成 30 年度は予算が大幅に上がっている。理由をお聞きしたい。

(館長) 図書館としてブックスタートを復活させたく、計画を出したことによる。あくまで図書館側で希望している計画なので、そのまま認められるかどうかは別の話である。

(松本委員) あげられている施策は充実しているが、学校図書館関係が少し弱いと思う。団体貸し出しとか、学校司書の研修とか、積極的に実施してもよいのではないか。児童生徒の読書量は学校図書館に依存する部分が多いと思うので、計画の目的の性格からすると、学校図書館への働きかけがもっとあるといいのではないか。全体としてはいろいろな事業があり良いと思うが、気になるのは、数値が記載されていないことである。「年に何回」とか定量的なものがあつた方が、担当課としても「やらなきゃ」ということでがんばれるし、計画期間が終わった後、評

価もしやすいと思う。計画自体はかなり固まってきたので、これに数量は足さなくてもいいかもしれないが、定量的な指標を入れたらいいか。11 ページ「ブックリストの作成と活用」で、「関連施設で配布します」となっているが、「何館に年何回」など示した方がいい。もう一点は、策定の経緯と策定主体も最後の方に書いたらいいか。これは基本的には、図書館になるのか、それとも教育委員会になるのか。

(館長) 前計画は当時、図書館が教育委員会に属していたので、発行・編集「小田原市教育委員会 図書館」としていた。現在、図書館は市長部局の文化部だが、業務自体は、教育委員会の事務であるため、「発行者 小田原市教育委員会 編集 小田原市文化部図書館」とし、今度の教育委員会定例会でこちらの概要を報告し、了承を得て、正式に決定される見込みである。

(松本委員) それならよい。策定の経緯等や数値目標は、学校図書館に限らず、全体的にあったほうがよい。「充実させます」などの表現が出ているが、具体的な表現があった方がいいと思う。

(館長) 第2章9ページから一部を抜粋した形での目標は掲げてあるが、確かに、ブックリスト発行回数や講演会開催回数は計画上には載っていない。内部では、予算要求の段階から、年間計画で「講演会を年1回開催する」とか、過去と比較検討できるよう記録を取っているので、検証する際にはそういうこともお示ししたい。

(委員長) 「検討します」ではなく、「1回はできるように目指します」のように一歩進んだ形で記載していただきたい。限られた予算の範囲でも講演会はできる可能性はあるから、1回くらいはアピールしていただきたい。松本委員もおっしゃったように、具体的な表現をお願いしたい。

(野口副委員長) 松本委員が言われたとおり、学校図書館の充実子ども読書活動の充実のために重要だと思う。このことについて、前々期の図書館協議会で報告、提案をまとめた。学校数が多く、学校によって温度差があることは否めない。図書館としてどう働きかけていくかも重要であると思う。学校図書館に限らず、18ページをご覧くださいといろいろな部署にまたがっている。各部署に対して、この計画をどう実行、実践していただくかの働きかけが重要である。前の計画の

時は、図書館からどのような投げかけを行ったのか。

(館長) 第一次計画の時は若干そういった実行性が十分ではなかったかもしれないが、第一次計画後に、学校司書の配置が進み、計画前に比べ、充実してきている。各学校でも図書のデータ管理が進んできている状態である。学校の中で図書館が注目されるにしたがって、図書館との連携や情報交換の機会も増えてきている。

働きかけについては、駅前の話もあるので、保育所や子育て支援関係の所管とのやりとりを進めている。現在、保育所等に図書館の除籍する図書をリサイクル本として提供できないかという打ち合わせをするなど、連携を始めている。

(野口副委員長) 各学校には、学校司書とは別に司書教諭がいるはずだが、司書教諭は毎年担当が変わる状況もあると思う。子ども読書活動推進活動そのものは、司書教諭に必ず毎年行き渡るようになっているのか。

(館長) 今回は作成途中だったので、まだお渡しをしていない。以前、野口副委員長は、学校図書館協議会の研修会講師をお願いされたと思うが、年に1回、学校図書館の関係者が集まる研修等に出席する機会があるので、図書館の発行物を配っていただくようにしている。

(益田委員) パブコメの意見にもあったとおり、学校司書が5月半ばに配置されるというのは、ボランティアや子どもたちから見ると、時期が遅い。予算の関係だとはわかるが、4月に図書館の使い方を学ぶときに学校司書がないというのは、子どもにとっては「なんで司書さんがいないの？」となってしまう。子ども読書活動推進のためには、契約を4月までに変更するとか、4月に学校司書がいるような状態をなんとか作っていただきたい。

(大塚委員) 4、5年前に学校図書館の司書が導入されて少しずつ状況が良くなり、小学校の図書館は子どもが来てくれる図書館になったと思う。学校司書から毎年のように言われているが、学校司書が雇用主である委託業者に言っても状況は変わらない。教育委員会の委託業務であるが、予算の関係でどうにもならないと言うなら、子ども読書活動推進のため、図書館の方から、状況を改善させられる施策を考えられないか。例えば、単年度契約ではなくて複数年度契約にするなど、なにかアイデアを考えていただきたい。議会でこの問題について質問しても、現状の説明しか返って

こない状況である。

(部長) おっしゃることはわかる。学校、教育委員会も承知していると思う。まずは配置というところから始まり、子どもたちが知ろうとするような学校司書の活躍、子どもたちが図書に親しむ中で受け取る成果、きちんと受け止める方法を考え、少しずつでも進化していくと思う。予算だけの問題なのか、長期雇用といったテクニカルな部分か、どの時点で契約するかによっても違うし、直接雇用などの問題もある。言い続けることで受ける方も少しずつ意識が整うと思う。教育委員会も予算をどう確保するか、どの分野に重点的に予算を配分するかなど、いろいろ考えていると思う。

(委員長) 読書推進計画は、TRY プランに位置付けて 6 年後までを目標として実践する案と考えていいのか。

(館長) そのとおりである。来年度 4 月からスタートするプランの中の個別計画の一つと位置付け、目標年度である平成 34 年度に向けて実践していく。

(委員長) 目標に従って、例えば 18 ページの計画事業一覧表が載っているが、このように進めば素晴らしいと思うが、検討するところで終わってしまったら計画倒れになってしまう。学校司書の問題では、図書館として何ができるかをどこかで明記する。家庭での子ども読書活動推進に関しては、ブックスタートの取り組みを図書館として「検討」ではなく、実際に「やるんだ」と言うことは無理か。0～1 歳児が父母と一緒に本に出会うことができる機会は、ブックスタートである。ブックスタートがなくなったらこんなに差ができてしまった。保護者によって子どもたちに非常に差がある。絵本に触れられない、絵本に触れることをご存じない。小学校で読み聞かせをした時に、幼稚園で当然 100%知っているだろうということを 50%しか知らない人がいるのが現状である。何らかの形でブックスタートだけはやる、という読書推進計画がほしい。表現はともかく、もう一步踏み込んでほしい。

(館長) 2 ページからは、「本市の第一次計画期間における取組」があるが、もし平成 34 年度が終わって新しい計画を作るときには、18 ページに沿った形でこれが出てくる。18 ページの「家庭における子ども読書活動の推進」というところで、今回「乳児と保護者への啓発事業」ということが書いてある。「ブックスタート」と明記はできなかったが、啓発事業ということでどういうことをやったという具体的な取組みがその時書けるの

ではないかと、皆さんのご意見をいただきながら、予算も工夫しながら実施していきたい。

(委員長) 具体化することによって予算措置ももう少し考慮してもらえないか、と思うところである。ブックスタートの方法についても、こういうことを踏まえてやるという説明をしながら、大変だが進めていただきたい。後期6年はいつからスタートか。

(館長) 平成29年度からである。

(野口副委員長) 20ページ「※学校図書館の図書標準」は用語としては「※学校図書館図書標準」である。17ページは「学校図書館図書標準」とちゃんと書いてある。統一していただきたい。また、20ページ「文部科学省が各種学校」とあるが、正しくは「各学校」である。6ページ「支援を必要とする子どもの読書活動の取組」と13ページ「支援を必要とする子どもの読書活動の推進」に、「養護学校」とあるが、正しくは「特別支援学校」である。

また、調べる学習コンクールは、今年度は小学生を対象に初めて実施したということだが、来年度、対象者を中学生に広げることは計画しているか。

(館長) 来年度は小学生のみを対象と考えている。中学校への拡大は学校教育現場のご意見も伺いながら検討したい。

(野口副委員長) 資料5-2の「論点」に、「中高生の図書館利用促進」という項目もあるので、ぜひご検討頂きたい。

(委員長) 調べ学習の研修会を2回やられたということだが、図書館が主催し、学校にお知らせをして、自発的に保護者とお子さんが図書館に応募するシステムである。各学校でどこまで周知しているかまでは把握できていないか。

(館長) 児童に行き渡るように学校へチラシは配っている。また、広報にも出している。広報で保護者が見て、ご応募いただいている。

(委員長) 図書館のお知らせは、学校は貼っておしまいなので、2回発信するよう学校へお願いするとか、熱心な先生には一言添えるとか、保護者を通してPRするとか、今後

も懲りずにやっていただきたい。読書推進の基本だと思う。6年の中でやっていくわけで、決められた予算でどうするか、市民の力や識者の知恵を借りて読書活動推進を実践へと進めていただけると子どもたちもうれしいと思う。

(深田委員) 10ページの「取組の期間」に「平成34年度まで」と書いてあるが、平成は終わることを考慮した表記をした方がいいと思う。行政的には元号を使うということか。

(館長) 法務関係に相談する。総合計画に合わせて配慮したい。

(4) その他

事務局より

- ・ 図書館行事のチラシを配付させていただいたので、ぜひ足をお運びいただきたい。
- ・ かもめ図書館臨時休館のご案内。
 - 1月24日(火) …非常用放送設備改修工事のため。
 - 2月20日(月) …電気設備点検のため。
 - 3月13日(月) …消防設備点検のため。
- ・ 次回の図書館協議会では、かもめ図書館の今後の設備や、駅前図書施設の運営方法などを議題とする予定。日程については、改めて調整する。(3月頃を予定)
- ・ かもめ図書館の入り口付近に「本のりさいくるコーナー」を新設した。『本のりさいくるフェア』を年1回開催していたが、年間を通じて利用者みなさんに提供できるよう方法に変更した。朝日新聞に取材をしていただいた。1回目は好評でかなり早くに出した本がなくなった。ボランティアさんのご協力もいただいて提供している。2ヵ月スパンで提供する予定でいる。

以 上